**第11章　事後学習ワークシート**

1.5歳児クラス（年長児クラス）の子どもたちが遊んでいる場面を観察してみよう。

本書に出てくる事例を参考にして観察からエピソードを書いてみよう。エピソードとは，見たことをありのままに物語にして書く記録のことである。

**日時：**

**場所：**

**エピソード**

|  |
| --- |
|  |

観察した子どもたちの姿について，第11章に示された5・6歳の特徴と考えらえる姿を抜き出してみよう。

|  |
| --- |
|  |

2.この頃の子どもとの関わりについて考えてみよう。以下の場面で保育者としてどのような関わりができるか具体的に考えてみよう。

　お泊り保育をしてとても楽しい思い出ができた子どもたち。帰ってきてからも「またみんなで川に行きたいね」，「肝試し，怖かったけど楽しかったなー」，「みんなでご飯を作って，みんなで一緒に寝るのまたしたい！」と子ども同士で楽しそうに話しています。そこで，保育者は楽しかった思い出を紙芝居にしようと思いつきました。紙芝居を作ることを子どもたちに提案すると，みんな喜んで「やりたい！」となりました。生活のグループ毎に一場面を描くことにし，まずは各グループでどの場面を描くか話し合いを始めたのですが…。

くじらグループ（タロウ，ミナ，リク，ケイ，マオ）では，タロウくんとケイちゃんが「川遊びの時を描きたい！」，ミナちゃんが「カレー食べたところがいい！みんなでがんばったから」となかなか話し合いが進みません。同じくじらグループのリクくんが「リクはカレーがいいけど，タロウくんはなんで川遊びがいいの？」と聞くと，タロウくんが「川にカニがいたよ。みんなで泳いで，それからカニを捕まえて楽しかった」と答えると，リクくんは思い出したように「楽しかったね」と言い「川の絵にしようよ」と伝えます。ケイちゃんが「一番楽しかったから川の絵がいいよね！ミナちゃん，川にしようよ！」と言うと，ミナちゃんは「…うん」と答えます。同じくじらグループのマオちゃんは困った顔で黙って見ています。

**あなたが考える保育者の関わり**

|  |
| --- |
|  |

**保育者の関わりを考える時のヒント**

**〇子どもが気持ちを伝えあう時間を保障する。**

　話し合いは，突然合理的にできるようになるものではない。全員が意見を言える，意見を言っても笑われず大切にされるといった話し合いの前提となる体験を保障したい。

**〇子どもの気持ちを丁寧に聞く**。

　話し合いの中で自分の気持ちを伝えられていない子はいないだろうか。多数決で決めるのが話し合いではないため，一人一人が自分の気持ちや考えを伝えること，その上でみんなで考えることを大切にしたい。自分の気持ちや考えを伝えられていない子に声を掛けたり，「本当にそれでいいの？」等，その子の気持ちや考えを伝えることができるような言葉掛けが求められる。

**〇問題整理をする。**

　話し合いをする過程では，子どもたちが話し合いについて共通理解をもつことができるよう保育者の支えが必要となる場面もある。そのため，「〇〇するにはどうしたらいいか考えているんだよね」，「今，何を話しているの？」等，話し合いの目的や，論点を整理したり，考える方向性を伝えることも求められる。